

# カリキュラムマップ<リハビリテーション学科視機能療法専攻>

## 建学の精神

「誠意と親切と真心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

## 建学の精神に基づく教育目的

全学の目的「建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の高度的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。」

リハビリテーション学科視機能療法専攻「深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもち視機能訓練士を養成する。

- ① 一般教養と視機能療法領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
- ② 高度化・多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
- ③ 生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。



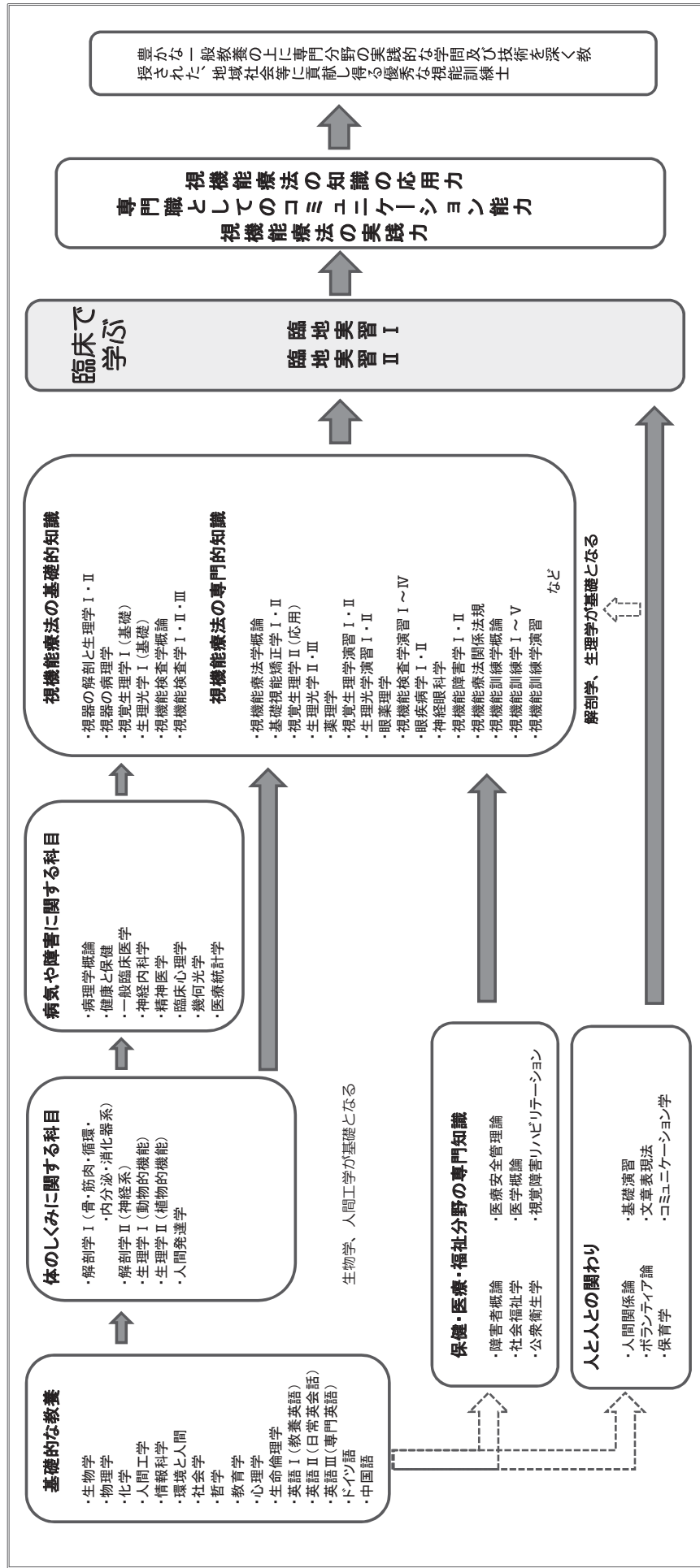
※ディプロマポリシーの番号は、Pの該当番号。

カリキュラム・ポリシー 全学方針	教育目的に基づく		1年次				2年次		3年次		ディプロマポリシー	
	項目	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	学習成果	全学方針	視機能療法専攻
社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間	生命科学 環境と人間	生命科学 環境と人間	生命科学 環境と人間	生命科学 環境と人間	生命科学 環境と人間	生命科学 環境と人間	1(1) 全学共通の教育科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などを身につける。	1(1) 全学共通の教育科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などを身につける。	5(1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、互いの立場を尊重した人間関係を構築して、視機能療法を実践する。
	人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習 文章書初法 英語Ⅰ(教養英語)	2(1) 一般教養と専門知識、技術及び実践力を身につける。	2(1) 一般教養と専門知識、技術及び実践力を身につける。
視機能療法の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。	人体の構造	解剖学Ⅰ (骨・筋・神経・内臓・消化器系等)	解剖学Ⅱ(神経系)	解剖学Ⅰ (骨・筋・神経・内臓・消化器系等)	解剖学Ⅱ(神経系)	解剖学Ⅰ (骨・筋・神経・内臓・消化器系等)	解剖学Ⅱ(神経系)	解剖学Ⅰ (骨・筋・神経・内臓・消化器系等)	解剖学Ⅱ(神経系)	視機能療法の基礎知識・能力の修得	視機能療法の基礎知識・能力の修得	5(2) 一般教養と専門知識、技術及び実践力を身につける。
	人体の機能 心身の発達	生理学Ⅰ(動物の機能) 人間発達学 保育学 健康と保健 医療統計学	生理学Ⅱ(植物の機能) 生理学Ⅱ(人間の機能)	生理学Ⅰ(動物の機能) 人間発達学 保育学 健康と保健 医療統計学	生理学Ⅱ(植物の機能) 生理学Ⅱ(人間の機能)	生理学Ⅰ(動物の機能) 人間発達学 保育学 健康と保健 医療統計学	生理学Ⅱ(植物の機能) 生理学Ⅱ(人間の機能)	生理学Ⅰ(動物の機能) 人間発達学 保育学 健康と保健 医療統計学	生理学Ⅱ(植物の機能) 生理学Ⅱ(人間の機能)	生理学Ⅰ(動物の機能) 人間発達学 保育学 健康と保健 医療統計学	視機能療法の基礎知識・能力の修得	視機能療法の基礎知識・能力の修得
専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれを学ぶ過程で、次に次の専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	基礎視能矯正学	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	視能矯正学概論 視能矯正学Ⅰ(基礎) 視能矯正学Ⅱ(臨床)	5(4) 向上心と探究心をもち、職務を果敢に実践できる。
	視能検査学	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)	視能検査学概論 視能検査学Ⅰ(基礎) 視能検査学Ⅱ(臨床)

# 科目関連図

各科目がどのようなに関連しているかを理解して学習をすすめる。

## ＜リハビリテーション学科視機能療法専攻＞



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

<リハビリテーション学科視機能療法専攻>

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
視機能療法の基礎知識・能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉・循環・内分泌・消化器等) 解剖学Ⅱ(神経系) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 人間発達学 保育学 病理学概論 健康と保健 幾何光学 医療統計学 一般臨床医学 神経内科学 精神医学 臨床心理学 視器の解剖と生理学Ⅰ(眼球・眼球付属器他) 視器の解剖と生理学Ⅱ(視路・眼運動系他) 視器の病理学 視覚生理学Ⅰ(基礎) 生理光学Ⅰ(基礎) 視機能検査学概論 視機能検査学Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学Ⅱ(眼位検査) 視機能検査学Ⅲ(両眼視機能検査) 公衆衛生学 社会福祉学 医療安全管理論 医学概論 障害者概論 視覚障害リハビリテーション	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
視機能療法の専門知識・技術の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	視機能療法学概論 基礎視能矯正学Ⅰ(眼球運動、他) 基礎視能矯正学Ⅱ(眼位、両眼視) 視覚生理学Ⅱ(応用) 生理光学Ⅱ(眼球光学) 生理光学Ⅲ(屈折・調節) 薬理学 基礎視能矯正学特論Ⅰ(解剖と生理、視覚生理) 基礎視能矯正学特論Ⅱ(生理光学) 視機能療法学実験研究 医療情報学 視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他) 視覚生理学演習Ⅱ(電気生理) 生理光学演習Ⅰ(屈折検査) 生理光学演習Ⅱ(屈折矯正) 眼薬理学 視機能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査) 視機能検査学演習Ⅲ(眼位検査) 視機能検査学演習Ⅳ(眼運動系検査) 画像診断学 眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他) 眼疾病学Ⅱ(遺伝性眼疾患、小児眼疾患他) 神経眼科学 視機能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他) 視機能障害学Ⅱ(網脈絡膜疾患、視路疾患他) 視機能障害学特論 視機能療法関係法規 視機能訓練学概論 視機能訓練学Ⅰ(視機能訓練学、基礎) 視機能訓練学Ⅱ(視機能訓練学、斜視) 視機能訓練学Ⅲ(視機能訓練学、弱視) 視機能訓練学Ⅳ(視機能訓練学、ロービジョン) 視機能訓練学Ⅴ(視機能訓練学、総括) 視機能訓練学演習 視機能訓練学特論Ⅰ(基礎) 視機能訓練学特論Ⅱ(応用)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
視機能療法の知識応用力・専門職コミュニケーション能力・実践力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。